

<実践報告>

## 音読指導を導入したリーディング不安軽減への取り組み

新本 庄悟<sup>1</sup>

本稿では、音読指導を導入したリーディング指導が、日本人英語学習者のリーディング不安を軽減するかを検討した。日本語と英語では修辞システムが大きく異なっており、日本人英語学習者は英文読解を行う際に、リーディング不安を抱えやすい傾向にあると言われている。また、リーディング不安と読解力の間には負の相関があると報告されているため、可能な限り不安を軽減する必要がある。リーディング不安に起因する構成要素として、学習者の音韻符号化の困難さが挙げられる。音読指導は、先行研究から、音韻符号化を促進する効果が確認されているため、リーディング不安を下げる効果が期待できる。そこで本実践では、週1回（合計12回）の音読指導を中心に取り入れた授業を実施した。指導前後でリーディング不安に関する質問紙調査を実施した結果、参加者は統計的に有意な差を持ってリーディング不安を軽減した。

キーワード：音読指導、リーディング不安、英文読解

### 1. はじめに

日本の英語教育において、英文読解は重要な役割を担っている。進学に関わる英語の入試問題には必ずと言っていいほど読解問題が出題される。その他にも、昇進、転職や留学を目指す際にスコア等が必要とされることが多い外部試験（英検、TOEIC、TOEFLなど）でも、リーディング問題が課される。また、リーディング単独の問題に加えて、リーディングとスピーキングまたはライティングの統合型の問題も出題されるケースが存在する。外部試験の合否やスコア取得が進路や転職などに関わってくる場合、試験時間内に英文を読み終えなければならないというプレッシャーを感じる学習者も多いと考えられる。

英語における読解力が重要である一方で、英語と日本語の修辞システムは大きく異なっている。そのため、多くの日本人英語学習者は英語を読む際に、不安を感じる場合があると報告されている。故に、英語授業においてリーディング不安を軽減する指導法が必要だと考えられる。本稿では、音読指導が日本人大学生のリーディング不安を軽減するかを検証した。

### 2. 外国語不安

不安は大きく二つに分類することが可能である。一つは、「特性不安」である。特性不安とは、

個人の性格に基づく不安であり、比較的安定的である。二つ目は、「状況特定不安」である。これは、ある一定の状況において個人が感じる不安のことである。例えば「外国語学習場面」などが例として挙げられる。特性不安とは異なり、その不安は瞬間的である。

外国語不安は、「言語学習過程の独自性から生じる、教室での言語学習に関係した自己認識、信念、感情、行動の複合体」（Horwitz et al. 1986）で、具体的には「話す、聞く、そして学習することを含む第2言語学習に特に関係した緊張や心配する感情」（MacIntyre & Gardner 1994）と定義されている。定義からもわかるように外国語不安は「状況特定不安」と考えられる。

また、外国語不安は学習過程において、状況特定不安を重ねるにつれて、外国語学習といった特定の状況に対する自らの態度や感情を決定するという（MacIntyre & Gardner 1994）。外国語不安を誘発するものは、一般的にスピーキングと考えられてきたが、日本人学習者に修辞システムが完全に異なる英語におけるリーディングにおいて不安が誘発されることが多いと報告されている。

### 3. リーディング不安

外国語学習における学習者の不安に関する研究は、主に Horwitz et al. (1986) による「授業内の外国語教室の不安（Foreign Language Classroom

<sup>1</sup> 京都産業大学 全学共通教育センター

Anxiety)」に関する研究から広がった。彼らは、学習者の不安を評価するために、「コミュニケーション不安」「テスト不安」「否定的評価不安」などの要素を含む「外国語教室の不安尺度 (FLCAS)」を開発し、それ以来、学生の不安を明らかにするためにこの尺度を使用する研究が進展してきた。不安に関する研究は、単に授業内でのものだけでなく、話すことや読むことなどの個別のスキルにも焦点を当ててようになってきたが、当初は主に「話すスキル」に関連した不安の研究が主流であり、一方で「読むスキル」に関する研究は限られていた (Horwitz et al. 1986)。

しかし、Saito et al. (1999) のリーディングに焦点を充てた質問紙 (Foreign Language Reading Anxiety Scale) が開発された後、リーディング不安に関する研究の数も増加している。

特に日本人英語学習者は、日本語と対象言語である英語の修辭形式が完全に異なるため、日本語以外を母語とする学習者と比較して、リーディング不安を強く感じる傾向にある。Zhao et al. (2013) では、中国語を学習している英語母語話者を対象に調査をおこなった。その結果、具体的なリーディング不安の原因を二点挙げている。一つは、それぞれの言語の表記方法が違うため、読解する際に音韻符号が困難な点。もう一つが、文化的背景の違いであり、これら以外の要因は存在しないとしている。

特筆すべき点は、リーディング不安が高まるとリーディング力に負の影響を与えることである (Saito et al. 1999; Zhao et al. 2013)。これらの研究では英語の習熟度が低いと不安を強く感じる傾向にあると報告されている。しかし、佐々木・上田 (2022) では、英語の上級者の方が英語能力の低い者よりもリーディング不安を感じやすいと報告している。いずれにせよ、英語の習熟度に関わらず、リーディング不安は可能な限り軽減する必要がある。

#### 4. リーディングプロセス

英語のリーディングを行う際、学習者はトップダウン処理とボトムアップ処理を実行する (門田 2007)。トップダウン処理とは、文字の認識よりも高次の文脈から意味を推測・推論する処理方法である。一方で、ボトムアップ処理とは、それぞれの単語や文の認識や音韻認識を実行し、意味を理解する方法である。実際に英語の読解を行う際は、学習者はトップダウン処理とボトムアップ処理を補完的かつ相互的におこなっていると言われ

ている。しかし、ボトムアップ処理能力が熟達しておらず、トップダウン処理ばかりに頼る学習者は英文を誤読することが多い。また、ボトムアップ処理能力が乏しい日本人英語学習者が多いとも言われており、英語の授業ではボトムアップ処理能力を高める指導を行うことが不可欠である (Kuramoto et al. 2007)。

さらにボトムアップ処理は文字認識や語彙認識を行う下位処理と統語処理や意味処理を行う上位処理とに大別される (氏木 2006)。特に読解においては、下位処理である語彙認識がとりわけ重要である。その際に行われる、文字情報を見て音韻に変化する過程 (音韻符号化) の自動化が必要であると言われている。音韻符号化が自動化・高速化することにより、ボトムアップ処理の効率も向上すると考えられている。

#### 5. 音読指導

英語教育における音読指導は、学習者の (1) 単語認知の自動化、(2) 音韻符号化の高速化、(3) 語彙や文法などの言語知識の内在化を促すとされている (門田 2007)。特に (1) と (2) に関しては、リーディング不安の解消につながる効果が大きいと仮定される。

鈴木 (1998) は、日本人の高校生を対象にした実践を報告している。実験では、十分に音読をおこなったグループとあまりおこなわなかったグループで、どちらの方がリーディングとリスニング力が向上するかを比較した。その結果、前者のグループの方が後者に比べて読解と聞き取りの技能が向上した。

加えて、音読指導の利点は、どのような指導者でも「取り入れやすい」とされている点である。また、音読指導は、読解力向上のためだけでなく、英語を発することから、スピーキングにもつながる指導法だと言える。

以上のことをまとめると、リーディング不安を誘発するのが音韻符号化の困難さである。その音韻符号化を効率良く高める指導法が音読である。しかし、先行研究では、音読指導を行うことによって学習者のリーディング不安が軽減されるかを検証した例はほとんど存在していない。

#### 6. 方法

##### 6.1 リサーチクエスション

本実践報告では、次のようなりサーチクエスションを設定した。

(1) 音読を取り入れた英語指導は日本人英語学習者のリーディング不安を軽減させるのか？

### 6.2 参加者

本研究における参加者は、関西圏私立大学に所属する大学1回生67名であった。参加者は、週1回の必修英語クラスを履修しており、専攻は経済学、経営学、法学、理工学など様々であった。長期留学を経験した参加者はいなかった。参加者の英語レベルは、TOEIC400~500点程度であった。

### 6.3 質問紙

音読指導を実施する前後で、質問紙によるリーディング不安の測定をおこなった。使用したのは、Saito et al. (1999) が作成した Foreign Language Reading Anxiety Scale (FLRAS) をもとに、佐々木・上田 (2022) が作成した日本語版の質問紙であった (付録を参照のこと)。

### 6.4 指導方法

週1回15分程の音読指導 (合計12回) を授業内で実施した。それ以外の活動はタスクを用いた指導や文法指導が中心であった。音読に使用した教材は TOEIC Part7 のビジネス英語に関連した長文問題であった。参加者は Part7 の問題に解答した後に英文の内容を把握し、筆者の後に続いて音読を行った。その後、各自またはペアワークを通して音読を複数回実施した。

## 7. 結果

質問紙によって得られた音読指導前後における平均値の値を、*t* 検定によって検討した (表1)。その結果、 $t(66) = -2.66, p = .00$  で統計的に有意な差を持って、リーディング不安が軽減された。また効果量を求めたところ、 $r = .31$  であり中程度の値を得られた。

質問紙の各項目の結果を表2にまとめた。一番不安が軽減された項目は Q.14 (ひとりで読むことはなんでもないが、人前で英語を音読するのはすごく不安だ) であった。授業内で繰り返し音読を実施したことで、英語を発することへの心的プレッシャーが下がったと考えられる。

次に大きな軽減が見られたのが Q.8 (英語を読んでいて、発音がわからない単語が出てくるとどうも落ち着かない) であった。これは音読がもたらす効果の一つである音韻符号の促進が今回の参加者にも有効であったことを示している。

一方で、最も不安が上昇した項目は Q.15 (英

語圏の文化や考え方にはとても距離を感じる) であった。この結果の要因として考えられるのは、授業で扱っていた内容が英語圏の文化というよりも、ビジネス英語を中心に扱う TOEIC に即した英文であったことである。

その他にも、事前事後の結果がほとんど変化していないが、標準偏差が大きくなっている項目 (Q.1, Q.2, Q.3, Q.10, Q.13) がいくつか存在する。今後はどのような学習者が不安を大きく低下させたか、または上昇させたのか個人差に着目し検証する必要があると考えられる。

表1. リーディング不安質問紙結果

	平均値	標準偏差
事前	49.2	7.53
事後	46.9	8.6

表2. 質問紙各項目の結果

	事前 平均値 (標準偏差)	事後 平均値 (標準偏差)
Q.1	3.6 (0.99)	3.6 (1.02)
Q.2	3.3 (0.98)	3.3 (1.10)
Q.3	3.3 (1.02)	3.2 (1.18)
Q.4	2.9 (1.28)	2.8 (1.26)
Q.5	3.2 (1.06)	3.0 (1.21)
Q.6	3.4 (1.11)	3.1 (1.14)
Q.7	2.7 (1.19)	2.8 (1.17)
Q.8	2.4 (1.13)	2.0 (1.07)
Q.9	2.8 (1.24)	2.6 (1.18)
Q.10	2.8 (1.10)	2.9 (1.20)
Q.11	2.4 (1.03)	2.1 (0.87)
Q.12	2.7 (1.03)	2.5 (1.06)
Q.13	4.1 (0.86)	4.1 (1.01)
Q.14	3.9 (1.03)	3.4 (1.27)
Q.15	2.7 (0.94)	2.9 (1.18)
Q.16	2.9 (1.18)	2.7 (1.20)

## 8. 結論

本稿では音読指導が学習者のリーディング不安を軽減するかを検討した。質問紙調査の結果、参加者は統計的に有意な差を持って、リーディング不安を軽減した。要因として挙げられるのが、音読指導によって参加者の音韻符号を効果的に向上させたことである。リーディング不安の原因である、英語の音韻符号が困難さを軽減できたことに

より、英語読解時の不安を下げる事ができたと推察される。

今回の実験の限界点は、統制群を設けていないこと、また英語の読解力の測定をおこなっていないことなどが挙げられる。今後は、どの英語レベルの学習者が音読指導によって、最もリーディング不安軽減できるのかなどの検証が必要であると考えられる。それに加えて、音読指導以外の指導(方略・ストラテジー指導)がリーディング不安を軽減するかも検証の余地があると考えられる。

#### 付録 リーディング不安質問紙 (Saito et al. 1999 ; 佐々木・上田 2022)

- (1) 読んでいる英語の文章をきちんと理解できているかどうかかわからないと、不安になる。
- (2) 英語を読んでいて、単語の意味はわかっているけど書き手や作者が言いたいことがわからないことがよくある。
- (3) 英語を読む際に、混乱してどんなことが書いてあったか、わからなくなってしまう。
- (4) 英語でいっぱいページを見るだけで怖気づいてしまう。
- (5) 馴染みのないトピックの文章を読むと、不安になる。
- (6) 英語を読む際に、知らない文法が出てくると不安になる。
- (7) 英語の文章を読む際に、全ての単語を知らないと不安になる。
- (8) 英語を読んでいて、発音がわからない単語が出てくるとどうも落ち着かない。
- (9) 英語の文章を読む際に、よく一語ずつ訳してしまう。
- (10) 知らない文字・表記を見ると、読んでいた内容について思い出せなくなる。
- (11) 英語の文章を読むため、全ての未知の表記や単語を知らなければならないのではないかと気になる。
- (12) 英語を学ぶうえでいちばん大変なのは、読めるようになることだ。
- (13) 英語を読めるようになることより、話せるようになることのほうが嬉しく感じる。
- (14) ひとりで読むことはなんでもないが、人前で英語を音読するのはすごく不安だ。
- (15) 英語圏の文化や考え方にはとても距離を感じる。
- (16) 英語を読めるようになるためには英語圏の歴史や文化を熟知しなければならないと思う。

#### 参考文献

- Horwitz, E. K., Horwitz, M. B., & Cope, J. (1986) Foreign language classroom anxiety. *The Modern Language Journal*. 70 (2): 125-132
- 門田修平 (2007) 『シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学』コスモピア, 東京
- Kuramoto, A., Shiki, O., Nishida, H., Ito, H. (2007) Seeking for effective instructions for reading: The impact of shadowing, text-presented shadowing, and reading-aloud tasks. *LET Kansai Chapter Collected Papers*. 11: 13-28
- MacIntyre, P.D., Gardner, R. C. (1994) The effects of induced anxiety on three stages of cognitive processing in computerized vocabulary learning. *Studies in Second Language Acquisition*. 16(1): 1-17
- Saito, Y., Horwitz, E., Garza, J. (1999) Foreign language reading anxiety. *The Modern Language Journal*. 83: 202-218
- 佐々木友美, 上田敦子 (2022) 「Reading anxiety と英語習熟度の関連性に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集大学教育研究』5: 41-60
- 氏木道人 (2006) 「シャドーイングを利用したリーディング指導の実践: 復唱訓練が読解力に与える効果について」『関西外国語大学研究論集』84: 213-230
- 鈴木寿一 (1998) 「音読指導再評価: 音読指導の効果に関する実証的研究」『LLA (語学ラボラトリー学会) 関西支部研究集録』7: 13-28
- Zhao, A., Guo, Y., Dynia, J. (2013) Foreign language reading anxiety: Chinese as a foreign language in the United States. *The Modern Language Journal*. 97: 764-778

---

## The Effects of Reading-Aloud Training on Reading Anxiety

---

Shogo NIIMOTO<sup>1</sup>

This paper explores the impact of reading-aloud training on mitigating reading anxiety. Previous research has indicated that Japanese English learners often experience anxiety when reading English sentences due to the substantial disparities in writing systems between Japanese and English. As a result, learners encounter challenges in phonological encoding, leading to elevated levels of reading anxiety. Previous studies have consistently shown that reading-aloud training is effective in

facilitating phonological encoding. In the present study, reading-aloud training was employed and a reading anxiety questionnaire was administered both before and after the training sessions. The results demonstrated a significant reduction in reading anxiety among learners. In conclusion, this paper discovered that reading-aloud training effectively enhances learners' phonological encoding skills, resulting in reducing reading anxiety.

**KEYWORDS:** Reading-aloud training, Reading anxiety, Reading

---

2023年12月5日受理

1 Center for General Education, Kyoto Sangyo University

